

＼ドン底からの超V字回復／
たった10ヶ月で慶應W合格！
オモテでは言えない、赤裸々合格体験記

こんにちは。石勝もここです。

このレポートでは、
ワンオペ育児中＆会社員ワーママの私が、

お受験を決意した経緯、直面した試練、
心折れどん底を味わった失敗談、
最後に慶應2校の合格を掴むまでの経験を
赤裸々にお伝えしていきます。

最初にお伝えしておきますが、
私はお受験が苦しかった。本当に。

終わった時に、
二度とこんな思いはしたくないと
心の底から思ったんです。

(2人目も控えてるのに)

こんなに苦しいなんて知らなかった、、、
最初に誰か教えてよ～～～！

これが私の心の叫びでした。

家族で東京タワー下のとうふ屋 うかいで
合格祝いをしたあと、澄み切った夜空をみて、
心に浮かんできたことは...

世の中には私のようにお受験に苦しむママがたくさんいるんだろうな。
私は苦しんだけど、せめて私の身近にいるお受験ママたちには
こんな思いをしてほしくないな、、、苦しむのは私ひとりで十分、、、

こんな思いから、
私のお受験サポートや合格指導が
スタートしました。

このレポートにお受験ママとしての経験
全てを詰め込みました。

さらに、今だから伝えられる
合格指導者の知見も織り交ぜています。

このレポートを読んで、
少しでもあなたのお受験が心穏やかに、

お受験の本質に集中できますように。

私の経験があなたのお受験のヒントになることを心から願っています。

がんばってね、あなたならできるよ！
いつも応援しています♡

・生い立ち

全然興味ないと思いますが、笑
後々につながるの生い立ちから
話を始めさせてもらいますね。

私は、会社員の父と専業主婦の母
いわゆる昭和の一般家庭に生まれました。

母はとても教育熱心で、
幼少期から色々させてもらいました。

英語、体操、絵画、トランポリン、新体操、
水泳、バドミントン、バスケ、書道など
数えてみたら、その数30！

毎日毎日、お稽古事をやってました。

今でも忘れられないのは、3歳からのピアノ。

私はいつまでたっても楽譜が読めなくて、
つまらなくて、一刻も早く辞めたかったんです。
(そもそも興味なかったしw)

でも、母が辞めさせてくれなかった。

母は、自分の人生を子ども＝私の人生で
生き直しているフシがあって。

母は自分が習うことができなかった
ピアノを私にやらせ続けたかったんですね。

娘の私からしたら、超いい迷惑です。

ピアノを辞めさせてもらえるように、
母に諦めてもらえるように、
ピアノの先生と喧嘩してみたり、
ピアノ教室から脱走してみたり。

私もあの手この手で

ピアノを辞める策を試行錯誤しましたが
結局、7年間辞めさせてくれなかった。

ピアノを辞めても、
エレクトーン→金管楽器に形をかえ、
音楽をやめるには、実に10年かかりました。

この経験が、
子どもの意思と気持ちを尊重する
私の子育ての原点となっています。

教育熱心な母ではありましたが、
転勤族だった父と同居を望んでいたのも
私が小学校受験することはありませんでした。

高校・大学受験では、
慶應を受験してみるも見事玉砕。

慶應義塾に縁のない人生を歩んできました。

大学卒業後、IT系の会社に総合職で就職し、
結婚してすぐ第一子を授かりました。

・「お受験」との出会い

第一子を出産後、数ヶ月した時。

さらりと旦那が、
「幼稚園とか入れてみる？」と
聞いてきました。

私は、もうびっくり！

(どこぞのセレブよ！？
私たち、フツウの会社員なんだから
そんなん無理に決まってるでしょ...)

お受験のオホホなイメージに
反射的に拒絶反応が出ていました、笑

よくよく旦那の話を聞いてみると、
近くにお受験幼稚園があるから
そこに入れてみないかという話でしたが、

子どもを幼稚園に通わせる
＝私が主婦になる
＝キャリアを捨てないといけない

なので、私は全力で拒否！！

私にとって仕事はやりがいで、
当時バリキャリへの憧れがあったので
キャリアを捨てることは死とイコール。

議論もせず、

お受験幼稚園もナシ！
幼稚舎なんて、トンデモナイ！！

というのが、私の元々の考えでした。

・我が子の性格

ここで少し我が子について、
少しお伝えしておきますね。

我が子はとても繊細、慎重な性格で
素足に砂がつくことも嫌がるような子でした。

私が仕事をしていたので、
0歳児から保育園に通っていましたが
進級のたびに増えるお友達にも警戒して
部屋のすみからじっと観察していました。

子どもらしい向こう見ずな行動など無縁。

繊細すぎる性格で
将来生きづらくなるのではと心配でした。

そこで私が心掛けていたのは、
我が子の内にむきがちなエネルギーを
外に発散させること。

つまり、身体をいーっぱい動かして
「うわあ～、疲れたあ～～～」という
心地よいエネルギー発散を経験させることでした。

平日は家と職場と保育園の往復で終わるので
休日が勝負。

隙あらば、公園に連れて行って遊ばせてました。

ちょっと難しい遊具は怖いと言って
上に登ってみることもしないので、
大量の「大丈夫だよ」の声掛けで挑戦させ、
その後、自力でどうにかさせるという

少々強引な荒治療。

自分でどうにかする逞しさを
育てたいと思って、
子どもに向き合っていました。

・急展開！毛嫌いしてた「お受験」を決意

そんなこんなで、
遊びまくる日々が続いていたある日。

3才になった子どもが
木のうろに集まるダンゴムシを見ながら
「最初の人間はどうやって生まれたんだろうね？」と
つぶやきました。

なんの変哲もない質問ですが、
幼児の発達からすると、
ダンゴムシと自分(人間)との違いに気づき、
子どもを産んで世代を繋げていることを理解しないと
この質問にはたどり着かないわけで。

自分の頭で考える素地が育まれた
サインだと感じました。

「鉄は熱いうちに打て」の精神で、
生命の歴史や図鑑を与え始めると
子どもも興味を示して、
のめり込むようになっていきます。

子どもの成長に可能性を感じ、
何かやらせてみようかと検討したのが
「早期英語教育」か「お受験」。

夫婦で話し合った結果、
「お受験」を選ぶことにしました。

なぜなら、英語は本人の意思があれば
後から習得できるスキルだから。

一方、お受験で得られる学校環境や
人との出会いは、本人の意思では
どうにもなりません。

子どもに最良の環境を与えるのは
親の務め。

環境は人をつくる。

このような考えで
小学校受験を決意したのです。

・慶應に焦点を絞ったワケ

さて、より良い環境を求めて
お受験を決意しましたが、
私学の色は実に様々。

国立も含めるとさらに幅が広いですね。

私は、お受験の知識ゼロだったんで
まず学校選定の条件を決めました。

宗教、男女比、給食の有無、
一貫校or中受校、通学時間、etc.

そして、電話帳ぐらい分厚い
小学校受験ガイドなるものを全部読み、
候補となる学校を洗い出しました。

初めて知る学校もありましたが
毛嫌いせず、読みましたよ！

その中で幼稚舎を本命にしたのは、
心底、幼稚舎の教育にほれ込んだから。

もう、恋です。
フォーリンラブ。

もう君以外愛せない～状態です。

私が幼稚舎への恋に堕ちた出来事は
詳しく後のチャプターで書きますが、

我が子の場合、
机に向かう勉強より体験型の学習を好み、
控え目な性格から厳しい競争の中では
本来の良さが生かせないと感じていました。

なので、のびのびと自分の興味関心に
打ち込むことができる幼稚舎が大本命。

同じ慶応義塾の源流を持つ
横浜初等部にも魅力を感じましたが、
第二志望に据えました。

その理由は上記の通りです。

・とりあえず幼児教室へ

目標が定まったので、いよいよ
子どもの準備に着手するか〜と
乗り込んだ幼児教室。

年中の夏のことです。

お受験から遠い世界にいた私には
「お父さま、お母さま、いってまいります」の世界に
違和感がなくて。

一種のアレルギー反応みたいな、
嫌悪感を抱きました。

生まれて何年しかたってない、
エネルギーの塊のような子どもを
窮屈な紺色の洋服で縛ってしまうなんて。
幼児教室でしていることが
本当に子どもにとって良いことなの...？

幼児教室の雰囲気にもウゲーっとなりながら
他の手段を知らなかった私は
仕方なく、子どもを通わせ続けました。

お受験するご家庭ほぼ全てが
何かしらのお教室に通っているのだから
これが正攻法なのだろうと、期待を持って。

・恋が本気の愛に変わった、学校説明会

幼児教室はパツとしない感じでしたが
子どもがお受験準備をスタートさせたので
親も重い腰を上げて、始動です！！

乗り込むのは、幼稚園学校説明会！

この時はリアルでやってたのでね、
どんなオホホ集団に取り囲まれるのだろうと
ビクビクしながら、天現寺に行きました。

玄関を抜けて、校庭に出て
「おお、これがかの有名なケヤキの木！」と思いながら
自尊館へ入りました。

自尊館、かなり古い。

それがもう...
なんともいえない重厚感...

入るだけで緊張していましたね～

待ち時間はずっと音楽が流れていました。

私は塾員じゃないので、
「これも慶應ゆかりの曲なのかしら」と
耳を傾けていました。

その中で、心に残る曲が1曲。
子どもたちが歌っている合唱曲。

♪ね、おじいさんになっても
ね、おばあさんになっても
ずっとずっと一緒にあったかく
付き合っていたい、ね！ね！ね！

いいなあ、
一生付き合っていける友達ができるって。
慶應の子たちは、16年間一緒なんだもんね。
そりゃこの歌詞にも重ね合わせちゃうわ。

慶應に入ったあとの生活を想像していたら
あっという間に定刻に。

舎長先生のお話を聞きました。

最近のオンライン説明会は、
学校の歴史止まりで舎長先生の教育観を
あまりお話しになりませんが、
この時はたっぷり語ってくださって。

主旨は以下。

————

時代がどれほど変わろうと、
子どもたちに必要なことは変わらない。

伸び伸びと遊び、
人との関わりの中で
個性を輝かせ、活かす術を知る。

そのために幼稚舎生活がある。

どんな子どもでも
より善く生きようと頑張っている。

色んな個性の子どもが入学することで
幼稚舎がより豊かになる。

志願者が多いので、入学者を
選ばなければいけない。

入試に向けて、
お受験中心の生活にならぬよう。

幼稚舎は年相応に心と体が
成長しているかをみている。

子どもに負担となる準備は避けるように。

入学すると保護者から「勉強しなさすぎ」と
お叱りの声をいただくことがあるけれども、
勉学の点数で人間の価値は測れない。

幼稚舎の教育に賛同してくださる
ご家庭のお子様を預かりたい。

————

全私が泣いた。全力で拍手！

素晴らしすぎませんか！！？

私が知ってる限り幼稚舎以外に、
勉強より大事なことがありますって
言ってくれる学校はなかった。

私は、
偏差値的に優秀な子どもを育てたい訳でも、
慶應の学歴を持つ子どもにしたい訳でもなく。

ただただ、保育園イチ繊細な我が子に
自分の気持ちや考えを安心して表現したり、
好きを極めて、個性を出して生きることを
教えてくれる環境を作ってあげたかった。

舎長先生の話聞いて、
「もう我が子には幼稚舎しかない」と
覚悟が決まりました。

その後、校舎内を見学して
さらにさらに好きになりました。

こんな環境...楽しい以外ないな！
子どもたちが生き生きするワケだ！！

子どもに戻れるなら、

私も絶対幼稚舎に行きたい！！

そう思いました。

学校説明会で完全に幼稚舎の虜になり、
私の気持ちも恋から愛にレベルアップ。

10倍超の試験をどうやって
攻略していくか。

本格的に考えなければなりません。

・頼りにならないお教室

私の期待に反して、
幼児教室に通うメリットが感じられず
もやもやする日々。

1回1-2万する授業の意味あるのかな、、、
この先生、ホントに指導力あるのかな、、、

ここから負のループの始まり、始まり。

私もね、お受験は初めてのことだから
言われたことをきちんとやるつもりでした。

高校、大学受験で培われた塾信仰というか
塾で試験の攻略法は教えてもらえると、
思い込んでたんですね。

あの面談の時までは...

ある時、面談で志望校を尋ねられました。
年中の秋ぐらいだったかな。

私ははっきりと
「幼稚舎が第一志望で、
第二志望は横浜初等部です」と答えたんです。

その後の先生の曇った顔、笑！
みんなにも見せてあげたい！！！！

先生「慶應は本当に難しいです。
本当に受かるかどうかわかりません。
他の学校を考えてください」

私「はあ～」

(いやいやいや...

あなた達、何年このビジネスしてんの。
これだけの生徒数がいてデータ取れてんのに
合格するための方法がわからないの？馬鹿なの？
そもそも本気で合格させる気がなんかな...！？)

先生「ペーパーは赤本を買って、
年長夏までに5~6回やってください。
難関校に受かる子は毎日50枚くらいやります」

私「.....」

(いや、幼稚舎志望だって言ってんじゃない！)

もうこの面談で教室と先生に失望。

慶應は難しいから、他を受験しろと！？！？

幼児教室の存在意義というか価値って、
志望校への合格確率をあげることだと思ってたんで
「難しいから諦めろ」って平気で言うてるなんて
目からウロコ、笑。

頼りにしてたのに、裏切られた気分でした。

さらに、子どもの様子で気になることを
先生に相談してみたんですが、この回答も絶望的で。

一般的な育児本とか教育本に書かれているような
あたり触りのない内容。

私が欲しかったのは、
定期的に我が子をみてるからこそその
生々しいアドバイス、
今すぐ試せる知恵とか工夫のヒント。

私の期待したものは一切出てこなかったですね。

いやあ、なんなのかな幼児教室って。

・絶望...絶望しかないドン底期

頼りにしてた幼児教室が
あてにならないとわかり、
お受験迷子になった私。

どうにかして、

この状況を打破しなければ！！

けれど、私の周りには
お受験を経験してそうな人はおらず。

こうなったら、
ひたすらネット検索！！

お金かからないし、
きっと誰かが情報発信してるよね～と
気楽に始めてみたのですが。

出てくるのは、子どもへの愚痴、
迷信チックな噂、ママ同士のトラブル、
旦那デスノート、etc

見ているうちに、
変に焦ったり、苦しくなったりして
ますますお受験をどう進めていいか
迷ってしまいました。。

もはや、打つ手なし...

心から信頼できて頼りになる存在が
欲しかった。

私と一緒に子どもを見つめてくれて
お受験の示唆をくれる人...どこ。。

だけど、そんな人はいません。

希望を持てるはずもなく、
日々の生活だけでアップアップ。

こんな窮屈で苦しい日々を
11月まで続けなくちゃいけないと思うと
絶望以外、何も感じなくなっていました。

唯一心休まるのは、
子どもが寝静まった後ですが

我が子の寝顔を見て思うのは、
「今日もプリントで怒っちゃったな」
「描きたくもない絵を強要しちゃってごめん」

我が子のために始めたお受験準備に
親も子も苦しめられていて、
当初の目的とは程遠い現実

胸が締め付けられる想いでした。

・理解してくれない旦那

すっかり孤軍奮闘するのに疲れた私は、
旦那に今の状況をわかって欲しかった。

夜帰宅した旦那を捕まえて、

- ・幼児教室に慶應合格の情報がなさそうなこと
- ・子どもに家庭学習をさせるのが大変なこと
- ・子どもがいつまでたっても絵が描けないこと
- ・ひとりで家事も育児もお受験もやるのが大変すぎる
- ・お受験に精神すり減らして、私が限界にきていること

を訴えました。

私は、旦那に共感とか感謝とか
労いの言葉を期待していたけど、
まったくそういうリターンはなく...

「なんとかなるっしょ！」

「頑張ればできるよ！」

そんな感じの反応...

(いやいやいや、
限界って言うてるがな！！)

もう怒り爆発です！

「なんで、そんななの？
子どもが慶應に受からなくていいの？
なんとなく受けても絶対受からないよ！
なんで私だけ、仕事して、育児して、
家事もこなして、お受験のことまでしなきゃいけないの！
なんでアンタは仕事が忙しいって逃げるわけ？
私だって、こんな生活全部投げ出して、仕事だけしてたいわ！！
日本語通じる大人と仕事してる方が100万倍楽なんだから！！
子どもの将来がかかってんのよ、親として一緒にやってよ！」

子どもが生まれても独身時代と変わらず
24時間を子どもに振り回されることなく、
全て仕事にあてられる旦那が羨ましかった。

私はバリキャリ思考だったから、
子どもを産んでキャリアダウンして
プライドが傷ついてたし。

そこに、重なった子どものお受験問題。

今お受験準備がうまくいなくて
私が苦しいのは旦那のせいにな
っていたのは否めません。

旦那が協力的になったとしても、
慶應合格の方法がわからないのは
変わらないから、
根本解決にならないのだけど。

とにかく旦那が憎くて。

数ヶ月に1度くらいの頻度で、
やりあってました。

こんな衝突を繰り返すもんだから、
自然と夫婦関係も悪化していきます。

旦那が一番後悔するように
離婚してやると、真剣に考えてたほど。

今考えると怖い怖い、笑

後から夫婦仲は回復するから
安心してほしいんだけど、笑

この時は
・夫に期待しない(高額ATMと思う)
・子どもの前だけでは喧嘩しない
この2つだけ気をつけていました。

・うまくいかない、家庭学習

旦那も旦那で困ったものですが、
子どもも子どもで問題でした。

遊ぶの大好きな野生児の我が子に
毎日家庭学習をさせるのは大変。

幼児教室に通い出してから、
毎日10枚プリント、1枚絵を描くことを
お約束して、目標にしましたが
まず机につかせるのがひと苦労！

「いやだ、いやだ」の連発で
一向にやる気を出しません。

しかも、やればできるのに、やらない。

そのスタンスに、母は頭カッチーン！

「早く机に来なさい！！」

「プリントやるのよ、早く！！」

おまけに、
絵も全然描かないのですよ。

いや、描けないのです。
本人が描きたくないから。

本人に描く意欲がないと
絵って描かせるのは難しくて。

しまいには、
「どうやって描くの？」とか
聞いてくる。

「絵なんて正解はないんじゃない！
思ったように描けばよろしい！！」

怒ってばかりの自分にも、
嫌悪感が増してきます。

この頃は、全てのことがストレスで
寝ている時だけが全てを忘れられる
唯一の時間。

お受験の暗黒期でした。
うん、間違いなく。

・心の支えになった合唱曲。

辛い辛い毎日でしたが、
私の幼稚舎への愛は冷めず。

合格するご家庭なら、
どんなことしてるかな、
こんなとき、どうするかなと
想いを巡らせていました。

家でAmazon Musicで音楽を流しながら
食器を洗ってたら...

流れてきたんです。

幼稚舎で、自尊館で聞いた、あの曲が！

自分の記憶力にもビックリですが、
メロディと歌詞が耳に残ってたんですね。

すぐさま携帯で確認したら、
合唱曲「ね」という曲でした。

曲の特定ができてから、
じっくり歌詞を噛み締めながら
聞き直しました。

ホントに、この曲の歌詞が秀逸で
お受験の先の未来を想像させてくれて
全てはこの未来のためにやってるんだって
思い出させてくれるんです。

私にとっては、お受験応援歌。
子どもが幼稚舎に入って
この歌を歌うことを想像して
何度も涙しました。

大好きだから、
ここに書いておきますね。

思い出しても、まだ泣ける。。

『ね』

♪うまく言えそうにもないけど
おなかのど真ん中に
確かに あったかいもの持ってる
まっすぐに伝えたい

色んな 偶然が重なって
ここで こうして あなたと
一緒にいられることが
ただ とても 嬉しい

ららら

ね おじいちゃんになっても
ね おばあちゃんになっても
ずっとずっと一緒にあったかく
付き合っていたいね ね ね

うまくいかない時もあるけど
もう一度やってみたら できた

負けるもんか 頑張れ 子どもたち
明日は 晴れるから

この大きな 青い星の上で
こんなに 近くなれるなんて
思いもしなかったから
ただ とても 嬉しい

ららら

ね おじいちゃんになっても
ね おばあちゃんになっても
ずっとずっと一緒にあったかく
付き合っていたいね ね ね

そりゃいろんなヤツがいるけど
なんだかんだ言っても 気に入ってる
本当に みんなが しあわせに
なれたらいいのにね

地球は回る 私が進む
みんなちょっとちょっとづつ
変わっていく
それでいいんだよ
いついつだって 自分を信じよう

ららら

ね おじいちゃんになっても
ね おばあちゃんになっても
ずっとずっと一緒にあったかく
付き合っていたいね ね ね

・ストレス大噴火！止まらない怒りと涙。

ストレスを抱えて、
お受験に向き合うのも無理な話で。

旦那への小爆発では収まりきらず、
ついに義理両親の前で大爆発！！！！

しかも、お正月のお祝いの場で。笑

すごいよね、私。
ありえないよ、私。

ホント、お恥ずかしいんですが

赤裸々にお話ししますね。

最初は冷静でした。
義母に「今年はお受験」という話を
していたんです。

旦那に比べて
義母が話を聞いてくれるもので、
私がついつい突っ込んだ話をしすぎ...

感情がたかぶってきちゃうし、
義母の優しさが嬉しくて
涙が出てきちゃうし。

今まで旦那にわかってもらえなかった
怒りも再燃、悔しい気持ちも湧いてきて。

大号泣—————！！

訳わからないけど、怒りながら泣いてたw

第一ラウンドは親族宅でしたが、
場所を移して第二ラウンドまでしました。

めちゃくちゃたまってたんだよね。

こんな醜態を晒した私ですが、
得たものも2つあり。

ひとつは、旦那の覚悟。
両親の前で嫁が醜態を晒したので、
自分もお受験に関与しなくてはという
覚悟が増した気がします。

もう一つは、大先輩との縁。
心配した義理両親がお受験経験のある
大先輩を紹介してくれました。

これがデカかった！
ハイリスク、ハイリターン！？

みんなにはお薦めはしませんが、
間違いなく、お受験の転機となりました。

・神様よりも神！大先輩との出会い

義理両親から紹介してもらった大先輩は
もちろん親と同世代。

数十年前にお受験を経験し、
お子様を幼稚舎に合格させた方。

私は幼稚舎に入れた親に会うのが
初めてだったので、
どんな出立ちなんだろうと
ドキドキしながら待っていました。

(昔の幼稚舎に入れた方なんだから
超セレブ！？ギラギラした人かな～
中途半端なお受験準備してるのを
相談したら、怒られるかな、、、)

そんな私の心配に反して、
待ち合わせ場所に現れたのは
優しい笑みを浮かべたおじさま。

いい意味で、普通の人。

この大先輩に、私たち夫婦は
お受験のいろは全てを聞きました。

お受験に臨む親に必要な覚悟
幼児教室との付き合い方
慶應に合格するためにやったこと

今までのモヤモヤを吹き飛ばす、
幼児期の教育ってこうあるべきだなと
気づかせてもらいました。

そして、幼稚舎で聞いた話と
やっぱりリンクするんですね。

今までの他人任せなお受験準備では
太刀打ちできないとハッキリわかった。

めちゃくちゃ反省すると同時に、
コレに気がついてよかったと思いました。

この時点で、試験まで10カ月。

ここから
真のお受験準備が始まります。

・お受験対策の方向転換

さあ、
問題だらけの我が家のお受験を
大改革しなければなりません！

まずは親の意識改革。

実は、今までお教室のペーパー問題って、
教室の中だけのことのよう感じていました。

日常生活とは別世界と。

でも、大先輩と出会ってからは
生活のどんな場面でも
お受験につながる学びがあると
工夫する力がつきました。

例えば、

「今日のデザートはぶどうだよ！
一房あるから家族全員に分けて。
ケンカになるから、同じ数にしてね。」

- ▶ぶどうの摘み取り:巧緻性
- ▶人数分の均等分け:数量

「2粒、余ったね。コレどうする？」

- ▶解決策を考える:行動観察(自律、協調、提案)

日常生活の中で
親が子どもが活躍する場面
子どもが自分の頭で考え、挑戦する環境を
できるだけたくさん作っていました。

子どもに真剣に向き合っていると
自然と親にもデータが溜まってきて、
子どもの特性がわかってきます。

数量は得意、でも常識が身につかない
特に、草花。全然興味ないんだな、とか。

子どもの特性がわかるようになったら、
親からの働きかけも変えていきます。

苦手なもの、興味のないものに
正面に立ち向かって、だめ！

ただただ繰り返し取り組ませるのは

できない＝嫌な気持ちを
植え付けているようなもの。

だから、親が子どもより
1枚も2枚もうわてになって
子どもの脳に深く印象づける仕掛けを
工夫して作っていきます。

苦手なものは普通レベルになれば良い、
得意なものはピッカピカに磨き上げて
誰にも負けないレベルに引き上げる。

親の腕の見せどころです。

・戦略的なお教室の使い方

日常生活で工夫できることは
たくさんありますが、
全部を親・家庭でやるのは
難しいのが現実です。

お教室に合格ノウハウがないことは
わかっていましたので、
我が家はお教室の役割を
2つに割り切って使いました。

①教える作業の代行

親子が教える側↔教わる側、
評価する側↔評価される側と
対立関係になると
ケンカしやすくなります。

同じ方向を向いて進むために、
教える作業は、
第三者のお教室に任せました。

②集団行動の練習

同年代のお友達の中で
ふさわしい振る舞いができるよう
試験の形式に慣れておくために
お教室を活用しました。

これ以上を、求めない。

多くの幼児教室が株式会社である以上
生徒数×単価で売上の最大化を求めているし、

客(親)の前にたつ「先生」と呼ばれる人は
サラリーマン&営業マンです。

教育者ではありません。

親の不安に漬け込んでセールスしてきますが
我が子に本当に必要か、冷静に判断してください。

人間は、同調行動といって
周りの大多数と同じ行動をとってしまう
無意識のクセがあります。

みんなと一緒に安心なんですね。

だから、お教室の先生から
「〇〇の講習は皆さん受講されますよ」と
言われると、申し込まないと不安になるんです。

不安を煽るセールスの常套句なので
注意しましょう。

・進級前の春休み

年長進級が直前に迫った春休み。

我が家は、独自戦略を
色濃くしていきました。

まず、慎重な性格の我が子に
初めての場所で力を発揮できるよう
場慣れの経験をさせていきました。

この時に選んだのは、広尾の教室。

広尾に行くことにも慣れておけば
試験当日も普段通りにできるかなという
期待もありました。

いざ行ってみると、広尾の教室には
男性の先生がいらっしやって
こりやまたラッキー。

だって、小学校受験の試験官は
8割が男性なんです。

園やお教室の先生って女性が多いから、
男性試験官に慣れない子って多いんです。
ビビっちゃうんですよね。

そういう意味で、広尾通塾には
たくさんのメリットがありました。

いつも通っている教室の先生には
当然いい顔はされなかったけど、
得られたものは予想以上！

まだまだ精神的に余裕があるこの時期に
他の教室を経験しておいてよかったです。

・いよいよ勝負の夏が来た

保育園児には夏休みってないんだけど、
お教室は夏の猛烈スケジュールが開始！

夏も我が家は独自戦略で
スケジュールを組みました。

まず、ペーパー含め総合的な対策講座。
学校別は、幼稚舎と横浜初等部だけ。

優先順位は、幼稚舎＞初等部＞総合で
講習が被ったらブレずに切り捨てました。

あと、効率良い学習には
本人のやる気が何より大事なので、
表情が暗くなってきたら
潔く休んでいました！！！！

積極的に休んでましたって話をすると、
「お金がもったいなくてそんなことできない」って
人が多いんですが、違いますよ。

子どもの状態をみて休ませないと
高いお金を払って、
子どもを潰しているようなもの！

試験に最高の状態で臨むための
準備ですからね。

お金払ってまでして、
子どもの明るさを奪い、心を挫くなんて
ぜーーーーーーーーったい論外です。

説教くさくなったので、
話を戻します。

あと、夏休みに意識したことは。

7月後半から8月中の1ヶ月半の中で
お教室で頑張る時期、家族で楽しむ時期の
緩急をつけて、設計すること。

ココは大先輩の助言を忠実に守りました。

・親が子どもを潰す秋

9月に突入。
生活リズムも日常に戻ります。

夏期講習が激しかった分、
子どもの成長も大きかったので
従来の通塾頻度に戻ると
なぜか焦りが出始めました。

まだこの時点で
絵を描いても一発で
何の絵かわからないレベル。

ペーパーはまあまあだけど
本人が嫌いだから一苦労。

頼みの綱は、行動観察と運動で
保育園で思いっきり遊んでたので
ほとんど点数を落とさない感じ。

親は、願書を書いたり
学校説明会に参加したりで
親の本番感が増してきて...

私、すごく焦ってまして。

夏の学習ペースを維持しなきゃって
躍起になっていました。

特に○×がはっきりつくペーパーは
できてない部分が目に入っちゃう。

絵もなんとか形になってきたけど
褒められたもんじゃない。

落ち込む日々。

「全然、できるようにならない...」
「毎日、同じことを言ってるのに...」

「真剣にやってんのかな…」

親だから仕方ないんですが、
子どもへの期待が高ければ高いほど
イライラはつのるばかり。

イライラする自分にも嫌気がさして
家庭学習の時間が億劫になるほど。

この時期は、まさに鬼の形相で
人を殺すような目線を放っていました。

感情任せに怒ってしまう自分を止めたくて
スマホで音声録音して聞き返したりしたものの
結局、自分を制御できず。

この時期は、本当に苦しかったな。
子どもにも可哀想なことをしてた。

この失敗から私が言えることは
焦りは禁物っていうけど、
マジでダメってこと。笑

自分を制御できなくなるから、
お受験ママにとって
秋は魔の時期と心得て欲しい。

しっかり怒鳴り散らしてたんで
私が偉そうなことといえないんだけど。

・いよいよ試験が始まった！

さて、10月20日すぎると。
神奈川校の試験解禁と共に、
我が家のお受験もスタート！！

最初は志望順位が低い学校で
緊張感ある本番の空気に慣れさせ、
11月に入ってから初めてがないよう
調整しました。

我が家の場合、
子どもが自分自身の予定を知っていたい
その通りに行動したい子だったので
試験日も全てカレンダーに書き込んで
子どもと共有。

学校見学など現地にいく機会があれば

積極的に参加していたので、
「明日はアノ学校よ」と伝えていました。

親は日に日に緊張感が増し、
焦りと不安で押し潰されそうでしたが、
当の本人は至って普通に保育園に行き
元気にお友達と遊びまくっていました。

幼稚舎の試験前日。
子どもの絵画にやっつけ感が出てきて
お尋ねの練習も覇気がない...

このままじゃダメだな...と感じて
思い切って動物園へ！

朝から晩まで丸1日思い思いに
楽しんで、コンディション調整。

帰宅後、1枚だけ絵を描いて就寝。

・ついにキタ！！幼稚舎試験。

幼稚舎の試験当日は、
朝イチの回で呼び出しだったので
朝起きて学校に行くだけで精一杯でした。

朝って苦手なんです、私。

前日に準備を完璧にしておいたので、
朝食を食べて出発するだけ。

気を抜くと、
不安が脳みそを支配して
嫌なことを考えそうだったので、
意識的にうまくいくイメージをしました。

「これは本人の試験だ」とか
「私がやれることは全てやりきった」とか
色々考えていたことはあるのですが、

最後、家のドアを開ける瞬間
「大丈夫、これが日常になる」って
思っていたのは、ハッキリと覚えてます。

広尾駅から学校に向かう途中、
天現寺の歩道橋の上で
子どもに飛行機バランスをやらせてる親を
ウゲーッと思いながら見過ごし、

学校の門をくぐりました。

幼稚舎の校舎は、
朝の冷え込みで本当に寒くて。

控室になっている教室でも
コートギリギリまで着てました。

呼び出しがあるまでは
アルバムを見ながら
子どもと話をして過ごしました。

子どもが普段通りでいてくれたので
私も少し冷静になれた気がします。

何度もお伝えしてますが、
我が子は慎重で目立つタイプでは
ありませんでした。

幼稚舎の倍率を勝ち抜くには
100%の自分を表現する度胸と
思い切りが必要と考えていたので、

「思いつき楽しんでおいで！！」

そう言って、子どもを送り出しました。

・試験終了したけど、えっ！？ウソ...

2時間後、子どもが帰ってきました。

明るい表情で戻ってきたので、
親としてはとりあえず一安心です。

学校の門を出てから、
恐る恐る試験の感触を探ります。

「楽しかった？」
「ゲームはやったの？」

そして、ついに
禁断の質問をしてしまったのです。

私「どんな絵を描いたの？」

超苦労して取り組んだ絵画。
全然絵を描けないところから
どうにか勝負絵を準備して。

子どもも頑張ってきたんだから、
勝負絵を描いた？
もちろん描けたよね！？

お願い、描いたって言ってええ...！！！！

子「ハンバーグ描いた！」

私「.....へっ...(白目)」

鉄パイプで殴られたレベルの衝撃！
(殴られたことないけど、笑)

天現寺の歩道橋が揺れてる？
それとも私が揺れてる？？

本当に、天現寺の歩道橋から
転げ落ちるかと思った。

あれほど言ってたのに！
あれほど言ってたのに！
あれほど言ってたのに！
あれほど言ってたのに！？

子どものアウトプットを
コントロールするって
難易度高すぎ~~~~~と
心底思いました....。

ああ、私の1年間の努力が・・・
もうどうあがいても仕方がない。

7～8人からお尋ねがあったことに
望みを持とう。果報は寝て待て。

次は、横浜初等部の1次試験！
頭を切り替えて行くしかない、
凹んでいるヒマありません。

・横浜初等部1次試験

幼稚舎に期待を持てずに
メンタルギリギリで迎えた
横浜初等部1次試験。

幸運なことに、この日は子どもが
「お父さんと行く」と言ってくれました。

正直ホッとしました。

子どもの一挙手一投足に敏感になって
心がブレブレだったので。

玄関で身支度チェックをして、
うん、大丈夫！！

「思いっきり楽しんでおいで！」

この日も幼稚舎の時と同じ言葉で
子どもを送り出しました。

あとは、子どもの健闘を祈るだけ。
神様、お願い！！

・運命の合格発表！

ついに来ました、この日が！！

幼稚舎の合格発表~~~~~

ちょっと不思議な話なんですが、
実は前日の夜、夢を見まして。

それがね、幼稚舎で先生たちが
最終144名を選考してるんですよ。

私はそれを
防犯カメラ的なアングルでみてる。笑

ある先生が、手元の願書の束から、
合格候補者の願書を一枚一枚並べていく。

おーねーがーいー
うちの願書もなーらーべーてー！！と、
念力を送りながら見守っていると、
我が家の願書も机に並べられたんですね。

(うん、大丈夫！！ちゃんと選ばれた)

ということで、朝起きたんです。

だから、合格発表もこんな感じで

合格って出るんだな～ってイメージして。

発表の時間まで、
自分を自分で勇気づけていました。

発表時刻の直前。

大きく深呼吸をしようと思っても
緊張で肺がこわばって全然空気を吸えない...

息してる？私？ダイジョブ...??

もう全身が心臓になったよう...

でも、見なきゃ...

え、でも怖い...

あっ、時間になっちゃった...

あ...うっ!??

合格

はい、合格です。

私、合格したら
めちゃくちゃ喜ぶのかなって
思ってたんですけど、実際は違って。

「はい、終わり!」って感じで。

自分でも驚きなんですけど、
合格がわかった途端、
めちゃくちゃ冷静になって
「やっとお受験終わりにできるんだ」って
思いましたね。

子どもの合格よりも、何よりも。

お受験に向き合う日々からの解放。

親が始めた戦に
どうにかして勝たせてあげたいという、
自分がつくった重責からの解放。

一気に体が軽くなりました。
一瞬で体感10キロ痩せました、笑

仕事中の旦那に報告をして、
お受験ママの任務完了。

心置きなく仕事に戻りました、
私、会社員だったのですね！

自分のことに
100%集中できるって幸せ！

まるで子育てが完了したような
解放的な気分でした。
(しかし、喜びはない)

数日後、
横浜初等部1次の合格発表。

幾らか心が軽かったものの、
緊張するのは変わらず。

発表時間までの間、ソワソワ。
意味もなく何分も歩いたりしていました。

そして...結果は...

合格

うちの子、天才かな？
もう予想以上の出来なので、
有頂天です。

だがしかし、
幼稚舎と横浜1次に合格したことで
新しい問題も発生しました。

・試験を続ける？ 続けない？？

ご存じの通り、
横浜初等部の試験は2次まで。

ここで、横浜の2次を受けさせるか
辞退するかという問題が発生しました。

なんとも贅沢な悩みですが、
我が家は第二子の受験も控えていて
幼稚舎と横浜初等部は絶対受けると
決めていました。

幼稚舎に合格してるのに、
横浜初等部の2次を受け続けて
万が一でも合格して辞退したら、
学校に失礼だろうか。
第二子受験に響くだろうか。

夫婦で議論した結果、
受験すると決めたからには
最後までやりきろうと決めました。

やりきった結果をもとに
進学先を決めたら、親子ともに
お受験に区切りをつけられるよね、と。

学校側がどう感じるかは
気になることはありませんが、

「我が家は我が家の考えで判断する」
「それで評価しないのはあちらの都合」と
心を強く持てたのは、お受験を通して
我が家が身につけた力だと思っています。

・横浜初等部2次試験

泣いても笑ってもコレが最後の試験。

子ども自身も今日が最後とわかって
試験に臨みました。

2次対策は、絵画のみ。

運動、行動観察は、
ほぼ満点の子だったので、
夜、絵画をする以外は普段通り
保育園で思いっきり遊ばせました。

1次は旦那と行って合格したので
2次も旦那担当。

玄関で

「思いっきり楽しんできてね！」と
お見送りしました。

・キタキタ、最後の合格発表！

最後の合格発表は、
食いつき気味で結果を見に行きました。

見るのが怖いという感覚があった
幼稚舎の頃とは大違いです。

結果は、合格。

万が一、横浜初等部にも
合格しちゃったら面倒だなと
思ってたのが的中しちゃいました。

夜、夫婦で進学先会議。

旦那「どっちに入れたい？」

私「幼稚舎！」(0.1秒で反応)

旦那「そうかあ〜」

私「まさか迷ってるの？」

旦那「...実は。うん、迷ってる」

え————つ、、、

うそ————ん！！

最後の最後で
信じられない展開を見せたものの、
これで我が家のお受験も終わり。

これ以上ないほど
子どもと向き合い、自分と闘った。

辛く苦しくもあったけど、
お受験を目指さなかったら
こんなに子どもと向き合っただろうか。

仕事だ家事だなんだって言って
子どもの思考が透けて見えるほど

わかるようにはならなかったと思う。

それに、子どもの成長って無限大。
やればやるだけ伸びていく。

限界は自分で作るものっていうけど
本当に親が加減してたら、
子どもはそれだけの成長しかない。

真剣に本気で子どもに向き合ったからこそ
子どもも全力で応えてくれたんだと思う。

お疲れさま、私。
よく頑張った。

誰も褒めてくれないけど、
子どもを育てるって
どんな仕事よりも偉業。

ビジネス界で活躍する人に
スポットライトがあたりがちだけど、
社会は人がつくるもの。

AIやロボットが活躍する時代がきても
人にしか出来ないことが必ず残る。

人を育てることは、未来をつくること。

母親業って、未来への投資だと思うし
さらに頑張るお受験ママは希望の光だよ。

私はずっとひとりで頑張ってきた。

誰かに相談したい、
気持ちをわかって欲しいと思っても
お受験っていうセンシティブなことは
周りの人には打ち明けられなかった。

保育園でお受験するのも我が家だけ、
旦那は家に寝に帰ってくるだけ、
お教室は皆ライバル。

もし私がもう一度お受験に臨むなら、
何よりも相談相手、
しかも成果を出した相談相手が欲しい。

そう思って、
慶應専門の合格指導を始めました。

ワンオペ育児中の会社員ワーママならではの
超実践的なテクニックや効果を最大化する時短術、
12-15倍の中で頭ひとつ飛び抜ける方法など、
軽やかに合格を掴むお手伝いをしたいと思っています。

悩むことすら、時間の無駄！

同じような悩みや苦しみを経験しても、
ちゃんと成果を出した実績があります。

点数で合否が決まる訳ではない小学校受験は
ブラックボックス化しがちです。

小学校受験の実態を把握して、
成果を出している方法を知ることが
合格への近道です。

私の情報を取りに来てくれている時点で、
みなさんは一歩リードしています。

今度はこの情報を、
合格に結びつける方法を考えてくださいね。

そして、正しい方向で進み続けた先に
合格が待っています。

この「進み続ける」ことが1番難しい。

大抵の人は悩んで立ち止まってしまうから。

もしあなたが心折れて
立ち止まってしまうようになったら、
私に連絡してください。

せっかく頑張っているのに、もったいないよ！

お受験を頑張る全てのご家庭を応援しています。

【番外編】

・旦那が憎くて憎くて仕方ない時の対処法

旦那が憎い〜〜〜って方は、
私だけじゃないハズです、笑。

お受験が絡むと顕著になるけど
普通の生活してても
感じてる人は多いと思います。

なぜなら、女性の負担が多いから。

結婚して、家事分担とかしてても
産休育休で分担バランス崩れたりね。

私も出産を境に旦那への不満が増え、
お受験でMAXになりました。

この人とイチャイチャ
ラブラブしていたなんて
想像できないほどw

口をきくのも嫌になって
もう離婚しかないかなあって
思っていたんです。

でも、これを
精神科医で3児のママをしてる
友達に相談したんですよ。

そうしたら
「不満をあげたらキリがないけど
今旦那がいるメリットもあるよ？」と。

離婚前にメリットとデメリットを
整理しておく事も必要と思って
(↑思考がヤバいまま、笑)
いざ実践！

・いつも家にいない
→会社で仕事をしている
→稼いでくれてる
→私と子どもたちが不自由なく生活できてる
→ありがとう♡

・いつも家にいない

→視界に入らない
→私が旦那を見てイライラしない
→私が気持ちよく生活できるように
配慮してくれてありがとう♡(勝手w)

・いつも家にいない
→ご飯の準備をしなくていい
→料理負担を減らしてくれてありがとう♡

・忙しすぎて朝ご飯食べない
→食費節約してくれてありがとう♡
→不健康な生活してるのに健康...ありがとう♡
→身を粉にして稼いでくれてありがとう♡

・家事をしてくれない
→私が家事を外注しても文句言わない
→家族カードいくらきっても怒らない
→私に任せてくれてありがとう♡

・育児にほとんど関わらない
→私のやりたいようにさせてくれて、ありがとう♡
→口出ししないで見守ってくれて、ありがとう♡
(中途半端に口だけ出すパートナーじゃなくてよかったな)

・旦那だけキャリアアップしてずるい
→私は稼がなくても生活の心配をしなくて済んでいる
→自分の稼ぎ以上の生活水準で生活できている、ラッキー
→そういえば結婚する時、専業主婦になっていいよって言ってたな。
稼ぐことで男のプライドを満たしてる人だったな。
今この人から仕事を取り上げたら、きっと良いことは何もない。
→稼いでくれて、ありがとう♡
→もっと稼いでくれていいよ〜♡どんどん仕事して♡

という感じで、まあ良いように
いくらでも考えられるんですね。

現状(事実)は、全く変わらないのに。

一部勝手な解釈が入っているんで
現状をプラスに受け入れられるように
自分で思い込ませているフシはあるものの。

この考え方をしていた方が断然ハッピーで。

「私の人生最高じゃん！」
「この人が旦那でよかったじゃん！」って
思えるようになったんですよ。

人間なので急には変わりませんが、
少しづつ意識して
不満に目を向けるのをやめていきました。

・もう一度旦那への愛情を取り戻す方法

思考を変えて、不満は減ったものの。

愛情レベルでいったら、
マイナスがゼロになっただけ。

まだまだ夫婦の間には
隙間風が吹いているわけです。

さあ、どうしたものでしょう。

日々の生活でお互い忙しいので、
時間をとってデートするとかできないし。
デートしたいとも思えない心境、笑。

どうしたものかと思っていた時に
ネットラジオで耳にした
7秒ハグで良い関係が築けるという話。

7秒スキンシップをすると

↓
脳内に幸せホルモンのオキシトシンが分泌される
↓
愛情や愛着が湧いてくる、という内容でした。

実はこれ、
子どもの自己肯定感を上げる方法として
紹介されてたんですが、旦那にも使えるなとw

こうして
私の7秒ハグチャレンジがスタート！

旦那には一切背景を話してないので
最初は何事かと思ったでしょうね、笑。

最初はかなりかなーり頑張って
甘えたような演技をして。

憎しみ隠すために、魂抜いて
決死のハグを敢行！！！！

「ハグさせて」と言って
もはや羽交締め！？笑

(ううう、、、加齢臭がクサイ)

気持ちも乗ってないので、辛い。

たった7秒、それが長い。

最初の1週間はぐったりです。
めっちゃエネルギー使う。。。。

でも、オキシトシンを信じて、
めげずにやり続けました。

習慣化には90日必要って
どこかで聞いたことがあります？

私も理由まで記憶していないんですが
そうなんですって。

だから、7秒ハグチャレンジも
3ヶ月は続けようと決めて続けました。

逃げ恥のガッキーを真似て
「ハグしよう」と誘ってみたり

歯磨きしている時にバックハグしたり

私の会社時間に起きていない時は
ベッドで寝ている旦那を勝手にハグ！

こう書いていると...
健気すぎやしないか、私！？笑

そんなこんなで
ハグチャレンジ開始1ヶ月。

だんだんハグに慣れ、
私も気持ちを込められるように
なってきました。

すると、旦那に変化が出てきました。

その日はたまたま在宅勤務で、
リビングのダイニングテーブルで
私はもう仕事してたんですね。

旦那も身支度してて、
そろそろ出発かなという時。

私のそばにちょこちょこ寄ってきて
無言で立ってるんです。

私はちょっと立て込んでたのもあり
メールを1本送ってから、
旦那に「何？」と聞いたんです。

そしたら、
「え、今日はハグしないの？」って、爆。

ハグされ待ちで、
ずっと突っ立ってたらしい！！笑

面白すぎるというか
可愛いすぎるでしょ...笑

大手企業管理職・アラフォー男子...

私、これで確信しました！
もう一度旦那を手懐けられると、笑

こうなったら、私は強いんです。
正攻法を掴んだら、徹底的にやる！

3ヶ月、7秒ハグチャレンジを完走！

憎しみだらけで
一番後悔させる離婚を模索していた私が
この人が旦那でよかったって心から思え
また愛情を感じるようになりました。

実は、子どもたちにも良い効果が♡

私たちが子どもたちの前で
堂々とハグチャレンジしていたので
「僕も」「私も」と乱入してきて
家族みんなでハグするようになったんです。

それが家族の雰囲気をよくしました。

お受験も家族で戦った感覚があります。

受験者は子どもだけど、
家族で支えあって、それぞれが頑張った。

過酷なお受験準備期に、
夫婦と家族の愛情にテコ入れしたのは

すごく凄くよかったと感じています。